

病院祭（感謝祭）実現に向けて

J A山口厚生連周東総合病院 医事課 久保崇彦

院内にある掲示板に提案を書き込んだのが去年の9月6日、昼休憩の時に話題に上がった話をそのまま書いたのが最初でした。その時点で本当に実現することになるとは考えてもみませんでした。院長は以前よりいつかは実現してみたいと思われていたらしく「来年度の病院アクションプランに入れます。ぜひやりましょう」と心強い返事を返していただきました。しかし、あまり実感はありませんでした。



年が明けて今年の1月18日、院内の様々な部署からスタッフが集まる「院内情報交換会」にて提案、他のスタッフの意見を聞きましたが、今までやったことのない大きな企画のため特に話の進展はありませんでした。しかし、事態は急展開を迎えます。2月初めに院長より「病院の増改築が終了する6月に開催する！」と決断が下されたのです。主導は実行委員会に一任していただき、ついに始動となりました。まず初めにしなければいけないことは目的の明確化です。目的は大きく分けると3つになりました。①地域住民へ工事完成のお披露目、交流。②職員間の部署の垣根を超えた連携。③職員家族への感謝。また、企画を進めていくのに3つのこだわりを持って進めよう思いました。それは後ほど書いていきます。

その後、今まで開催したことのある病院に電話をしました。病院祭と言えば長野県厚生連の佐久総合病院が全国的にも有名です。また、JA高知病院でも同様のお祭りをしていて聞き、担当者へ直接電話、資料を取り寄せました。（後に見学にも行きました）

次に実行委員会メンバーの募集を全職員に対し行いました。年齢、役職、部署などを問わず「やる気のある人」を集め、2/18に第一回実行委員会を開催しました。集まったスタッフは13名。皆、好きで集まっただけにその会は大いに盛り上がりました。委員会は月に2回程度のペースで開き、参加外部団体、企画などの詳細を決めていきました。そしてその都度、参加スタッフ写真入りの「実行委員会だより」を発行、各部署へ配布して参加意識の向上に努めました。1つ目のこだわりとして、院内広報紙に参加スタッフの写真、名前を載せることができました。こうすることでより身近により現実的に感じられると考えたからです。

幹部会議、部署長会議、診療会議、看護部会議など様々な会議に参加、また多くの部署に出向き説明を行いました。説明を重ねるうちに質問もだんだん出るようになり関心が高くなっていきました。2つ目のこだわりとして頻りに各部署を回ることがありました。顔を見て、目を見て話をするのが重要であると考えたからです。

皆が一つに向かって進んでいくことは非常に大事ですが、全員が実行委員会で活動することは無理です。どうすれば少しでも多くの人に参加してもらえるか？そこで今回企画したのは部署紹介パネルの作成とオブジェのための折鶴作成です。特に部署紹介パネルは各部署競い合うようにユーモアのある作品を作っていて、お祭り当日も人気コーナーの一つとなりました。

広報活動は主にポスターの配布でした。近隣の学校や施設、地元商工会などに手分けしてお願いに行きました。時期が近くなるにつれ次第に地域での認知度が広まっていき、地元のアマチュア楽団の方からクラシック演奏発表を行いたいとのお願いを受けることもあり、徐々にステージ内容も厚みを増してきました。会社の企業祭ではなく地元のお祭りとして認識してもらえるように市の広報課へ趣旨を説明しに行き、市の広報誌にも掲載していただきました。これらは最初に「地域住民との交流」という明確な目的を決めていたことが良かったと思います。

徐々にお祭りの概要が出来上がってきて、いよいよ当日スタッフの募集をしました。ボランティアのため最初はどうかと思っておりましたが、フタをあけると142名の参加がありました。当初の目標は100名としていたのですがそれを大幅に上回る人数が手を挙げてくれたことは大きな驚きであり大変嬉しかったです。3つ目のこだわりとしてスタッフ全員に配るTシャツ作成がありました。オリジナルのワンポイントTシャツ（職員がデザイン）をスタッフ全員が着ることで連帯感が出ると考えたからです。一週間前からは詰め作業が多く、とりわけ総務課は大変だったと思います。物品の管理、発注、点検などは総務課のおかげで助かりましたが連日、夜遅くまで準備が続きました。

当日は6月中旬という梅雨時期にも関わらず奇跡的に晴れとなり、絶好のお祭り日和となりました。来場者は予想をはるかに超す1,000人以上と大盛況でした。スタッフの役割分担は行っていたのですが、当日はなかなかその通りにはいかず、余裕があったはずの人員配置も実際は休憩が取りにくかったり、駐車場整理が予想以上に大変だったりと多くの問題点がありましたが、スタッフそれぞれが自ら考え、協力し、行動してくれたおかげで大きな混乱もなく終了することができました。また、家族を連れてくる職員の姿が多く見られたことは大きな喜びでした。特に手術室見学コーナーは人気で、普段見ることの出来ないオペ室をツアー見学できるとあって、予定していた回数を大幅に増やして対応するほどでした。また、模擬店もほぼ売れ残りはなく、全ての企画が大好評でした。

終わってからスタッフを対象にアンケートを実施しましたが、「楽しくなかった」と答えたスタッフはいませんでした。また、大半のスタッフが「次回も開催したい」と答えました。反省すべき点としては「開催までの進行状況」があまり理解できなかったと答えたスタッフがいたことでした。もっと頻繁に情報を開示し、参加しやすい環境を作ることが必要だと思いました。

普段、話をすることがあまりない職種の人ともこの企画を通じて交流が図れたことは私自身とても有意義でした。普段忘れがちな支え合うこと、感謝することの大切さを一つの

目的を共有することで再認識できました。普段は忙しい仕事で余裕のなかったみんなの顔が当日はきらきら輝いてみえました。この病院だからこそできたのではないかと誇りに感じています。

病院が一丸となって取り組む力強さは地域医療を支えていく私たちにとって非常に重要なことです。地域のために必要な病院であり続けること、それをスタッフ一人一人が使命と思い、これからも患者さんのために仲間と一緒に頑張っていこうと思います。また、一事務員である私にこの企画をらせていただいた院長先生に感謝したいと思います。みなさん本当にありがとうございました。

